

真 建 設 第 9 7 号

平成20年10月17日

国土交通省道路局長 殿

真庭市長 井手紘一郎



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

このことについて、別添のとおり提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

岡山県真庭市

道路は社会経済活動の発展を支え、豊かな国民生活の実現と国土の均衡ある発展を図るための最も基本的で重要な施設であります。

整備された道路は、物資輸送の効率化や安全で円滑な交通の確保に大きく貢献し、地域間の物流などの経済活動をはじめ、地域間の交流や医療・福祉また、観光産業の発展などに寄与し、また、そこで生活する人々の生活に安全・安心を与えるなど、地域の振興に大きく貢献します。そのため、本格的な少子高齢化社会を迎え、安全・安心な社会の確立、地球環境問題への対応等、市の抱える諸問題に対応し、目標とする将来都市像を実現する上で、道路整備は大きな役割を果たすと考えられます。

しかしながら、本市内の道路網は、地形上などの問題点もあり、まだまだ未整備路線も多く地域住民からの強い改良整備の要望が出ています。立ち遅れている地方の道路整備の状況を踏まえ、道路整備を進める上での優先順位の基準となる交通量にとらわれることなく、地方が真に必要としている道路整備が計画的かつ確実に実施できるよう、道路整備財源の安定的確保及び地域の重要なインフラである道路、農道、林道の一体的整備により地域再生を図る道整備交付金制度の更なる拡充と継続を強く要望します。特に地方交付税の抑制が続き大幅な財源不足が見込まれることから交付率を現行の率（５０％）以上となるよう財政力に応じた算出方法として、交付率の引き上げを望みます。

また、本市は蒜山高原、湯原温泉、神庭の滝など県内でも有数の魅力的な観光資源に恵まれており、年間４００万人の観光客が訪れていますが、５００万人誘致を目指して努力しているところであります。このため、観光行政と道路行政が一体となり、景観を考慮した安全で安心できる観光地へのアクセス強化に取り組む必要があります。広域連携を支える根幹となり、地域相互の交流促進等の役割を担うのが地域高規格道路であり、既存の広域交通網の中国自動車道、米子自動車道及び岡山自動車道とともに高速交通網の役割を果たす鳥取県

倉吉市から本市蒜山初和間の地域高規格道路の位置づけは大変大きく、広域ネットワークの推進と早期での整備着手を強く望むものです。

市町村合併により広大な行政区域となった本市には高速道路のインターチェンジが5箇所あり、地域の活性化・物流の効率化等に対応するために、現在実施されている料金社会実験を踏まえ、高速道路ネットワークを有効に活用するための多様で弾力的な料金施策を早期に本格実施していただくことが、地域観光資源等への交通の利便性の確保に大きく寄与するものと考えております。

道路が整備されても、その維持管理にも多額の費用を要しています。特に各自治体とも老朽化した橋梁等の道路構造物を早期に調査診断し、耐用年数を延伸させる時期に来ており、道路整備の効率化や低コスト化を促進する上でも、これらへの補助制度を創出・充実する早急な取り組みを望みます。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1

○現状

市町村合併により広大な行政区域となった本市において、広域交通網は東西に中国自動車道、南北に米子自動車道及び岡山自動車道が走り、京阪神、四国、山陽、山陰経済圏域との結びつきが強まり、中国地方の東西南北交通の要衝となっていますが、中にはいまだに片側1車線の対面通行区間があり交通事故が多発するなど、高速通行の安全性の確保、渋滞解消、利用者の利便性の向上がまだまだ図れていません。

これらへのアクセスとなり、生活産業の基盤となっている国道、県道は、急峻な地形のため落石や土砂崩れ、地すべりなどがたびたび発生し、現在でも長期にわたる片側通行規制が続いている状況であります。また、それらの恐れのある危険箇所もまだまだ多く、中には迂回路がないために集落が孤立したり大雨警報のたびに通行止めを余儀なくされる地域もあります。

また、地域住民の生活道路として重要な役割を担っている市道については、総延長1,163km中改良率54.2%と低く、集落内においては救急車などの

○課題

- ・米子自動車道、岡山自動車道の早期全線4車線化
- ・広域道路として高い交流機能を発揮する国道313号地域高規格道路北条湯原線（蒜山下長田～蒜山初和間 6,500m）の早期な「調査区間」「整備区間」の指定による早期着工・完成
- ・国道181号（江川～荒田間 1,000m 拡幅・防災）、313号（仲間地内 640m 拡幅・防災、柴原～真賀間 700m 拡幅・防災、久世地内交差点改良・歩道改良、下方～落合垂水間 1,200m 垂水バイパス整備、宮地～栗原間 800m 拡幅、下中津井～上水田間 3,400m 北房バイパス整備）、482号（蒜山吉田地内 1,200m 拡幅、蒜山中福田地内交差点改良、蒜山上徳山 3,500m 拡幅）や県道にあっては、特に、落合建部線（旦土橋架換）、新見勝山線（月田～月田本間 1,000m 拡幅）、勝山栗原線（関地内 2,500m・別所～佐引間 2,500m バイパス整備・拡幅）、目木大庭線（大庭地内 1,000m バイパス整備）、西原久世線（大庭地内 500m バイパス整備）、湯原美甘線（篠ヶ峠トンネル化整備）、久世

緊急車両の通行が困難な箇所や住民の貴重な足となっているコミュニティバスなどの安全な運行に支障を来している現状にあり、まだまだ未整備路線も多く、地域住民からの強い改良要望が出ているところです。

旧町村間や公共施設、病院、学校、観光施設などを相互に結ぶ幹線道路の整備は市政の重要施策として位置づけているところであり、幹線道路へのアクセス、行政サービスの提供や市民の日常生活の利便性確保、さらには若者定住、集落機能の確保のためにもより一層早期に計画的で着実な地域の生活を支える道路整備が重要となっています。

中和線（植杉峠トンネル化整備）等の事業着手、完成が長期間見込めていない路線への安定財源による計画的な遂行と早期完成

- ・地元地権者協議の難航により事業進度が鈍化している路線の早期完成（計画段階から地域住民、関係者、利用者への参加を求め、住民ニーズを積極的に反映する）
- ・道路改良時に踏切拡幅協議が事実上困難な状況のために前後の道路より幅員が狭い踏切があり、車も歩行者も危険であるため踏切交通の安全確保が早急に望まれる。
- ・コストの高騰により事業費が膨らみ財政圧迫と改良率が伸びないため、住民ニーズを積極的に反映し、部分的に標準規格・構造にとらわれない地域の実情に応じた規格・構造としたコスト縮減

今後の道路行政についての意見・提案

②－２ 地域の目指すべき将来像

本市は、“全ては地域と住民”のため、水や緑など豊かな自然に囲まれたまちを誇りに、温かい人間性と文化の薫りが漂う、住みよい地域社会の構築に向けて「創造・改革・融和」をまちづくりの基本理念に、「賑わいと安らぎの杜の都 真庭」を目標とし、将来像を“水と緑 人と文化を未来につなぐ 賑わいの《杜市》 真庭”として、清流旭川や緑豊かな山々と共に生き、多彩な地域の資源を情報・道路網により連携することによって、様々な産業が元気になり、若者が活き活きと働く賑わいのあるまちを目指しています。

中国自動車道、米子自動車道、岡山自動車道の広域高速交通網は、人・物の広域的な交流・連携を支える主軸となるものであり、広域交流・連携軸として位置づけ、また、地域内及び周辺地域との交流・連携を支えるものとして、国道、県道、市道等の既存道路からなるネットワークを地域交流・連携軸及び地域交流・連携補完軸として位置づけて、その機能の維持・強化を促進し、地域内にある５つのインターチェンジへアクセスする地域内道路網の強化、北部・中部・南部の各ゾーン間及び行政拠点が集積している７つの拠点地区の結びつきを深める道路整備を進め、各地区間の連携強化と日常生活における利便性の向上を図っていき、東西南北に走る高速自動車道の交通拠点性を存分に活かし、観光客５００万人を目指す「観光回廊 真庭」の振興、全国に誇るバイオマスタウン構想の実現、高度情報通信基盤の整備と活用、若者定住化支援など、産業振興、雇用促進施策を進めていきたいと考えています。

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価	○その他
水害等の災害に強い国土づくり	国道３１３号沿線（湯原～勝山間）の道路防災対策	生活・産業の基盤となっている国道は、急峻な地形のため落石や土砂崩れ、地すべりなどがたびたび発生している状況にあるが、防災対策が年次的に施行され、着実に水害等への対策が講じられて危険箇所が減少することで、地域住民はもとより、観光等で訪れる人々への安全安心感が生まれてきます。 しかし、市内を南北に縦貫する主要幹線道路でありながら、現在でも長期間に渡る片側通行規制が続いている箇所もあり、その恐れのある危険箇所もまだまだ多く、地域経済産業の発展のためにも、計画的に早期での着実な対策整備を望みます。	災害により道路が寸断され、集落が孤立する事態もこれまで数回発生しておりますので、地方道の整備に対し、十分な予算措置を講じていただきたい。
総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	国道３１３号垂水バイパスの整備	本箇所は市街地で、幅員狭小で急カーブが連続しているうえに歩道が未整備であり、大型車両の通行量も非常に多く、通行車両はもとより、歩行者、自転車利用者にとって大変危険な状況にあるため、バイパス道	

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価	○その他
	県道勝山栗原線 整備	路の整備が進められてきているところであるが、一部完成区間の部分供用開始はされているものの、事業進度の鈍化により、全線開通にはまだまだ年月を要する状況にあるため、車両の円滑な通行と地域住民の安全確保ためにも、強い事業推進で早期完成を図っていただきたい。 本路線は、旧町間を連絡する地域住民の生活の利便性の向上はもとより、広大な行政区域となった中で市民の一体感の醸成もためにも重要な幹線道路であるが、いまだに幅員狭小で対向車とのすれ違いが出来ない箇所や見通し不良な危険箇所があるなど、通行に大変苦慮している状況にあります。 このため、バイパス化と拡幅の計画がされているが、限られた予算充当のため事業進度は非常に低く、全線完成の目途さえ立っていない状況にあるため、集中的な事業費投入を望みます。	